

2001.5.23 現代日本論演習 I (田中重人)

第7回「クロス表の書きかた」

1. 他人に見せる表
2. 表と図のあつかい
3. 表の書きかた
4. グラフの書きかた
5. クロス表を説明する文章

【他人に見せる表】

資料としての表...データを詳細に再現したものがよい

プレゼンテーション用の表...

わかりやすく情報を圧縮する

どう圧縮するかがセンスの見せどころ

【他人に見せられない表】

セル数が多すぎて周辺度数が偏っているもの

期待度数が 5 未満のセルがあると、 χ^2 係数には意味がなくなる、とされている
適切なカテゴリー統合を行う必要

資料としての意味はまた別である

カテゴリーの並べ順や行列の
くみあわせをわかりやすく

変数とカテゴリーの命名

表のタイトル

【表と図】

**表 (table) ...活字と罫線で行列型
に組む。**

図 (figure) ...活字・罫線以外の要素を含む。グラフのほか、概念図や写真を使うことも

【表と図の約束ごと】

「表 1」「図 1」のようにそれぞれ
れ通し番号をつけて参照

表のタイトルは上、

図のタイトルは下

「それだけでわかる」ように

【表に書くべき要素】

各セルの行(列)%

行(列)合計の度数と「100.0%」

列(行)合計の%

全体の度数

Cramer の V (または)

欠損数とその原因

行 列の因果を想定するのがふつうだが、
列 行でもよい。(％の「100.0」で区別)
全度数が 1000 人以下であれば、％は小数
第 1 位まで
V や などの係数は小数第 3 位まで
2 列表の場合は 1 列の％だけ示してもよい
統計的検定をした場合は、その結果も

縦罫線はなるべく引かない

文字列は左揃え、数字は小数点揃えが基本
タイトル、表本体、注釈を読めばそれだけでわかるように書く

タイトルと行・列頭の見出し (heading)
を工夫する

【Excel による作表】

SPSS の出力をコピーして必要
なところを残す

「書式」「セル」メニューの

「表示形式」「配置」「罫線」

で整形

【グラフの書きかた】

クロス表は積み上げ棒グラフで表現するのがふつう

(2 列表の場合は棒グラフでも)

(度数多角形を重ねる場合もある)

グラフは細かい数字がのせにくいし、紙幅を食う。基本的には表を使用して、特に視覚的インパクトを狙う場合に限ってグラフを使うのがよい

【Excel によるグラフ作成】

注意点：

- データ系列の順序
- 凡例の表示
- 区分線の表示
- 棒同士の間隔

【クロス表を説明する文章】

まず周辺度数分布を説明

線形の関連か？

大小のある変数で、行によって大きいほうまたは小さいほうに偏っている関連

どのセルに注目するか？
特徴的なセルをみつけて、それをほかの適当なセル（周辺度数）と比較する。カテゴリー統合のセンスがものをいう

%とポイント差：

「YはXより10%大きい」とは

$Y=1.1X$ それとも $Y=0.1+X$ ？

後者の場合は「10ポイント大きい」と書く

表に示される**事実**と、自分が加える**解釈**との峻別

【解釈のツボ】

実感に照らして納得できるか
測定・分析のミスではないか
標本の偏りで説明できないか
(統計的検定)

【先行研究と照合】

命題を立てる

既存のデータと整合的か

(後知恵ではないかたちで)

理論的に説明できるか